

最近の再生合材の技術動向

**(社)日本アスファルト合材協会
技術委員会 海老澤秀治**

排水性舗装のAPにおけるリサイクリングの現況について

- ・排水性舗装発生材の現況
- ・各機関の取り組み状況
- ・日合協・技術委員会における取り組み状況
(排水性舗装発生材を使用した再生密粒度混合物)

の供用1年後の追跡調査結果)

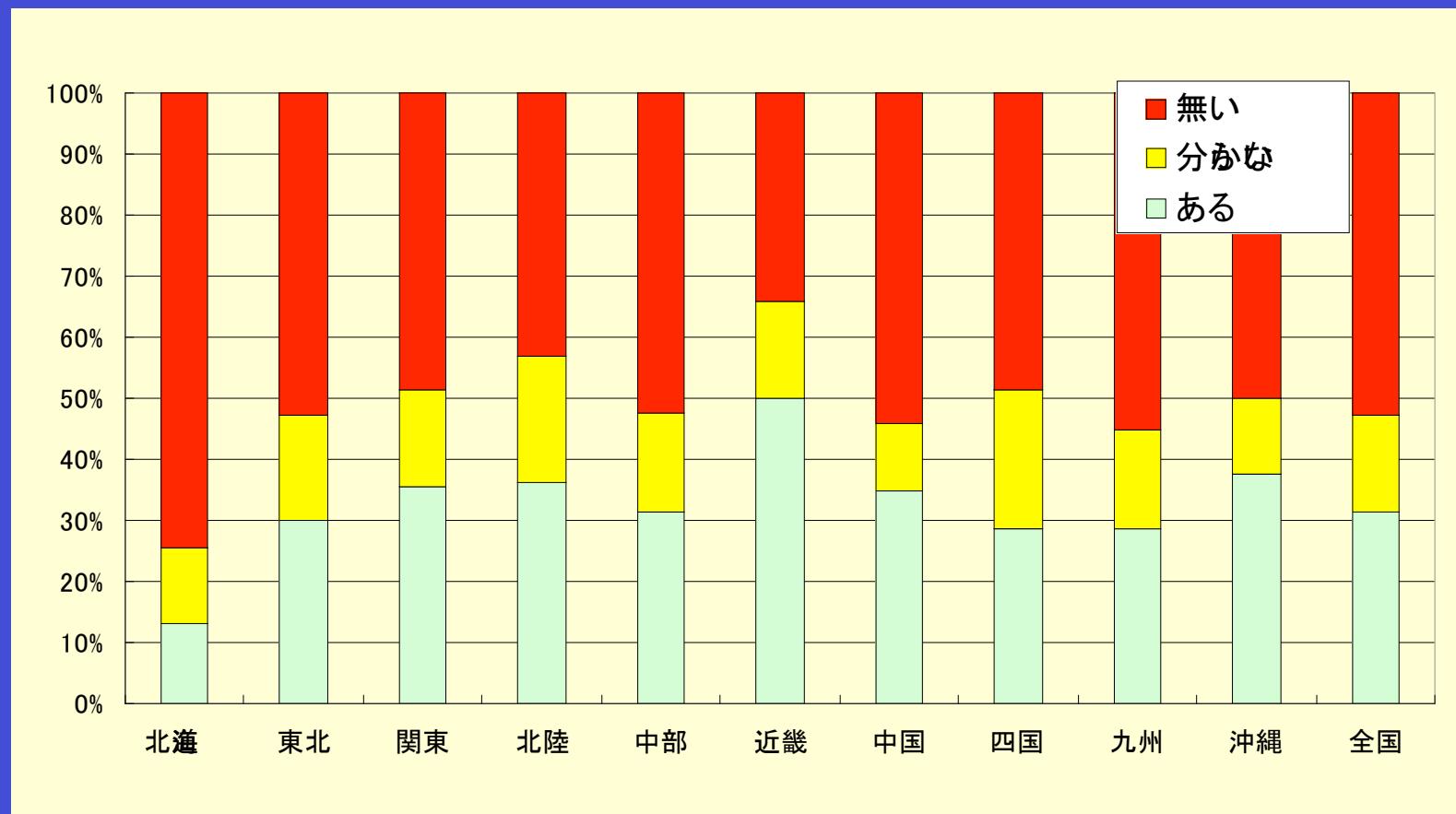
排水性舗装発生材に関するアンケート調査結果

調査対象期間

平成15年11月1日

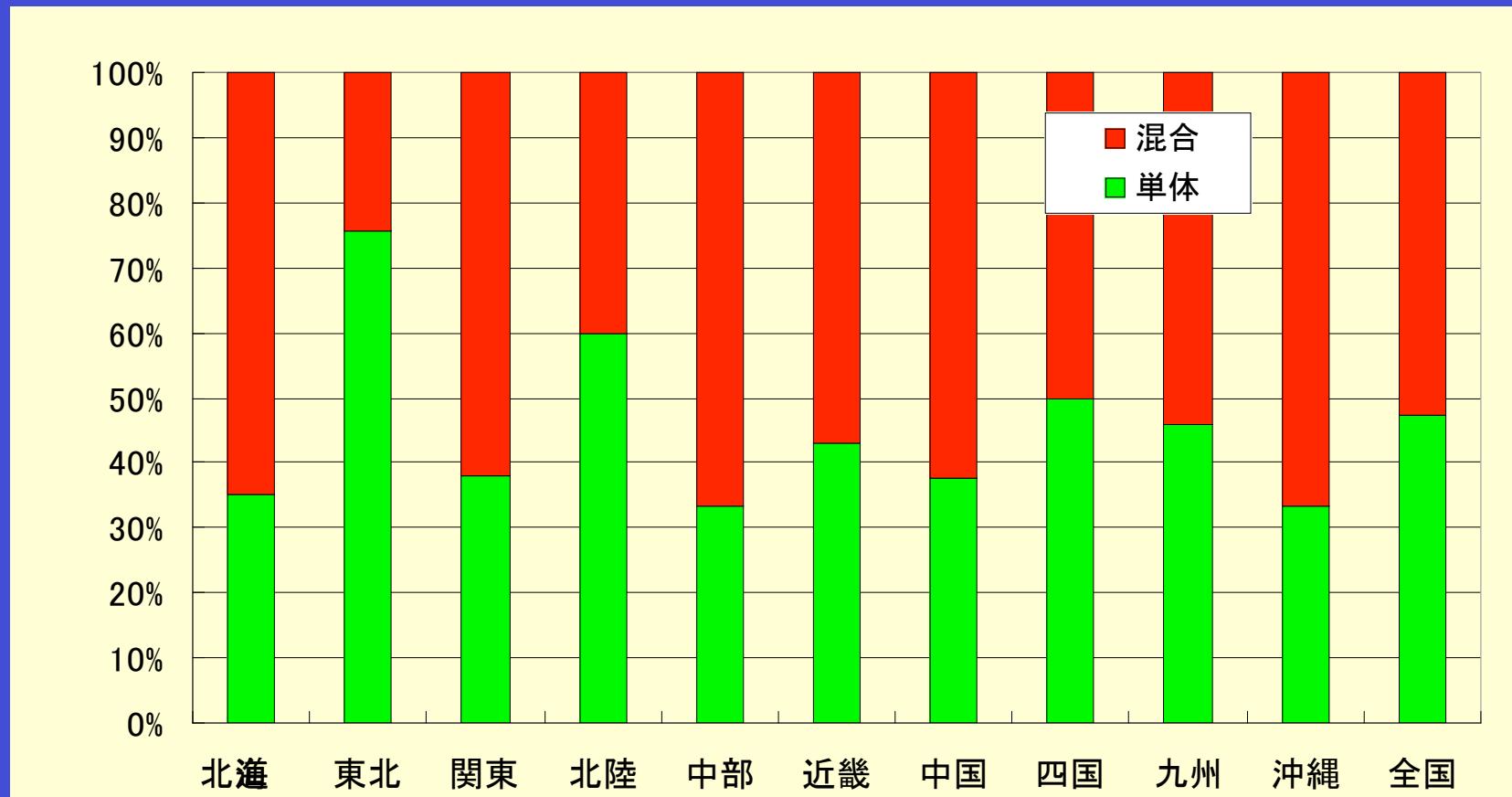
平成16年10月31日

排水性舗装の発生材の受け入れ状況



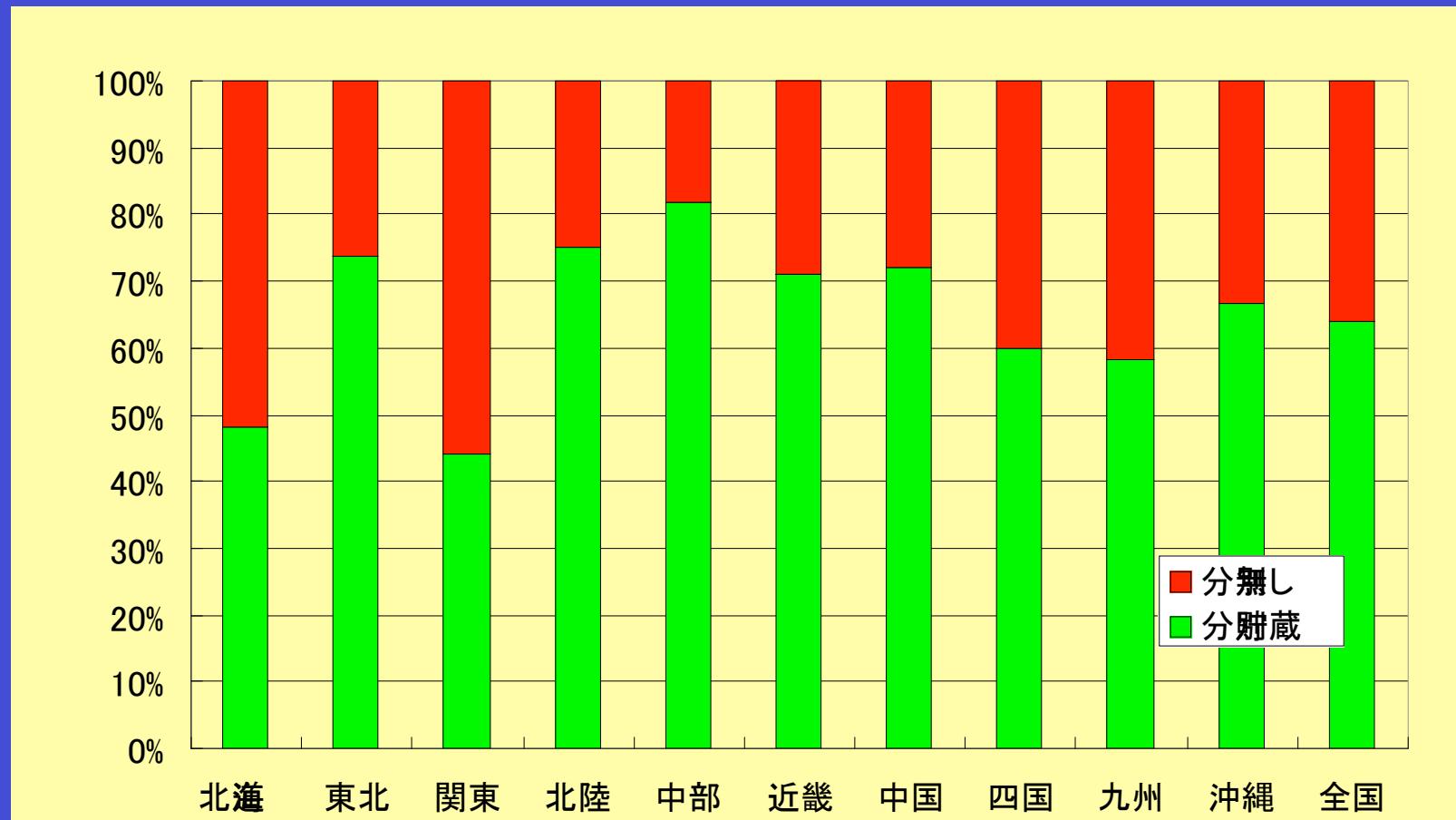
約50%の工場が排水性舗装の発生材の受け入れをしたことがないと回答しているが、分からぬを加えると約50%の工場で何らかの形で排水性舗装の発生材を受け入れているとも言える

排水性舗装の発生材の搬入形態



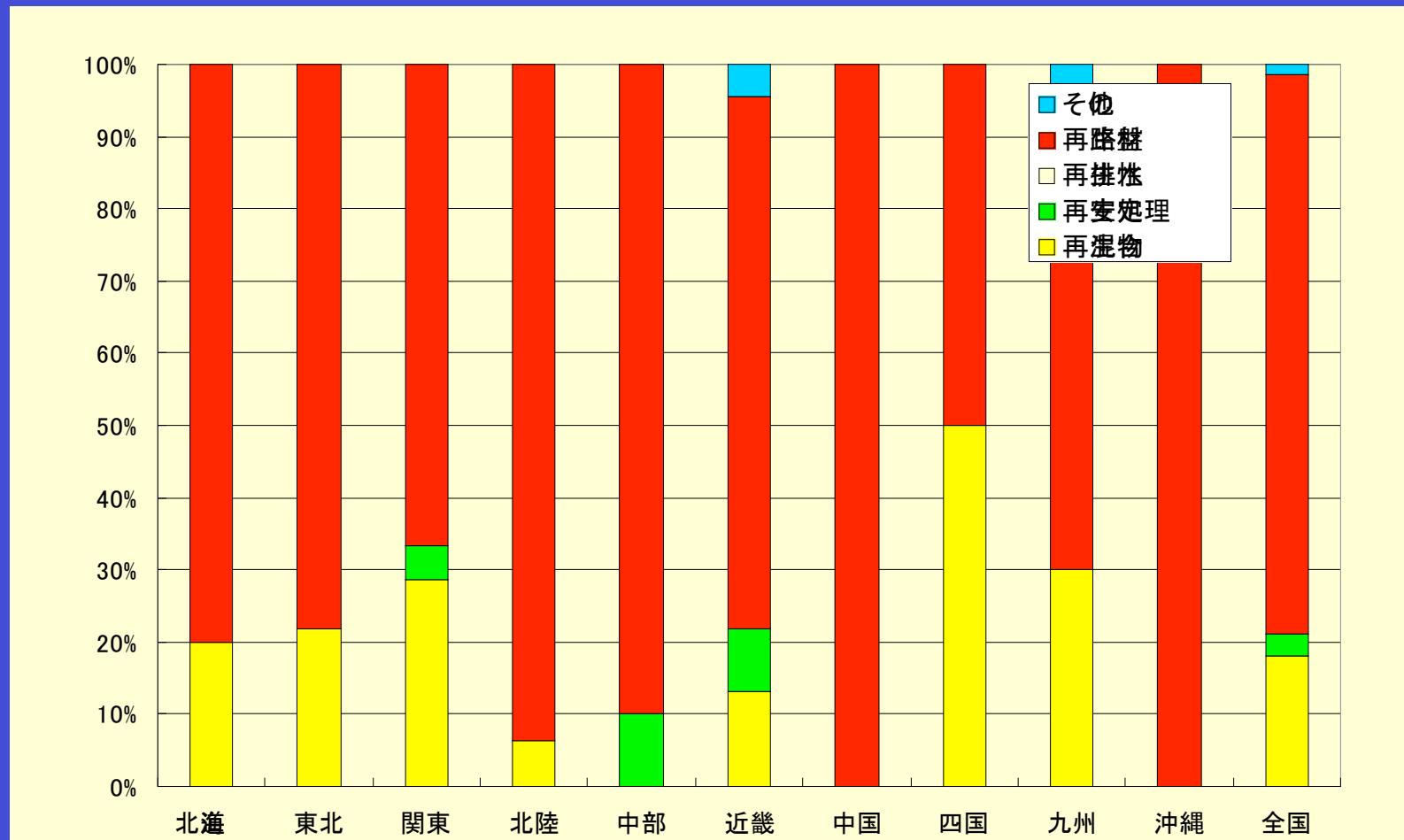
東北および北陸地区を除けば、排水性舗装発生材の概ね40～65%程度(全国平均:50%)が基層混合物等と混合された状態で工場に搬入されている。

排水性舗装の発生材の貯蔵状況



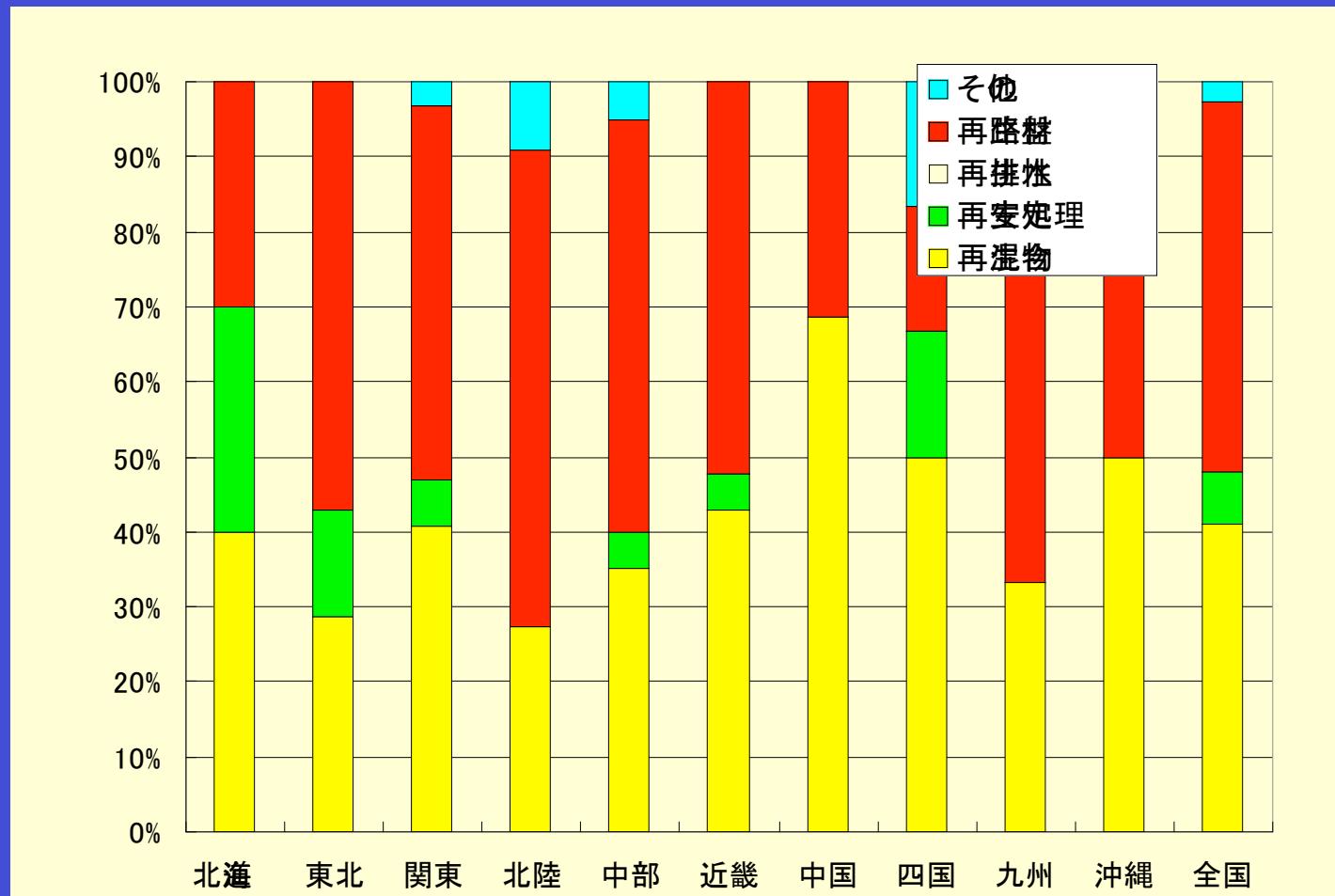
全国的に見ると、排水性舗装の発生材であることが明確な場合には約65%の工場で分別貯蔵が行われており、最も分別貯蔵率の低い関東地区でも約45%の工場で分別貯蔵が行われている。

排水性舗装の発生材が単体として搬入された場合 の利用状況



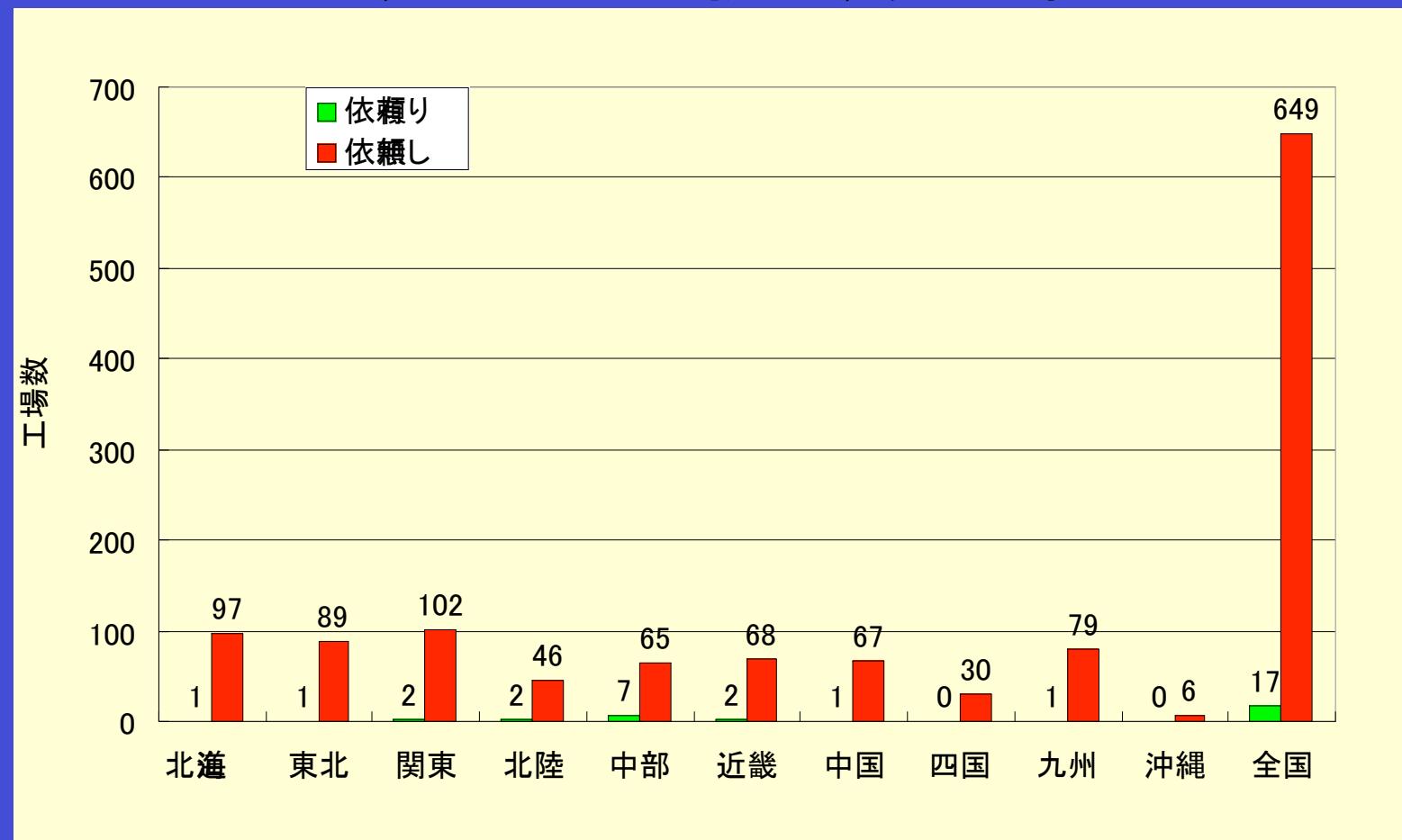
再生合材用の再生骨材として利用している工場は約20%程度であり、約80%の工場では再生路盤材として使用している。

排水性舗装の発生材が基層混合物等と混合されて搬入された場合の利用状況



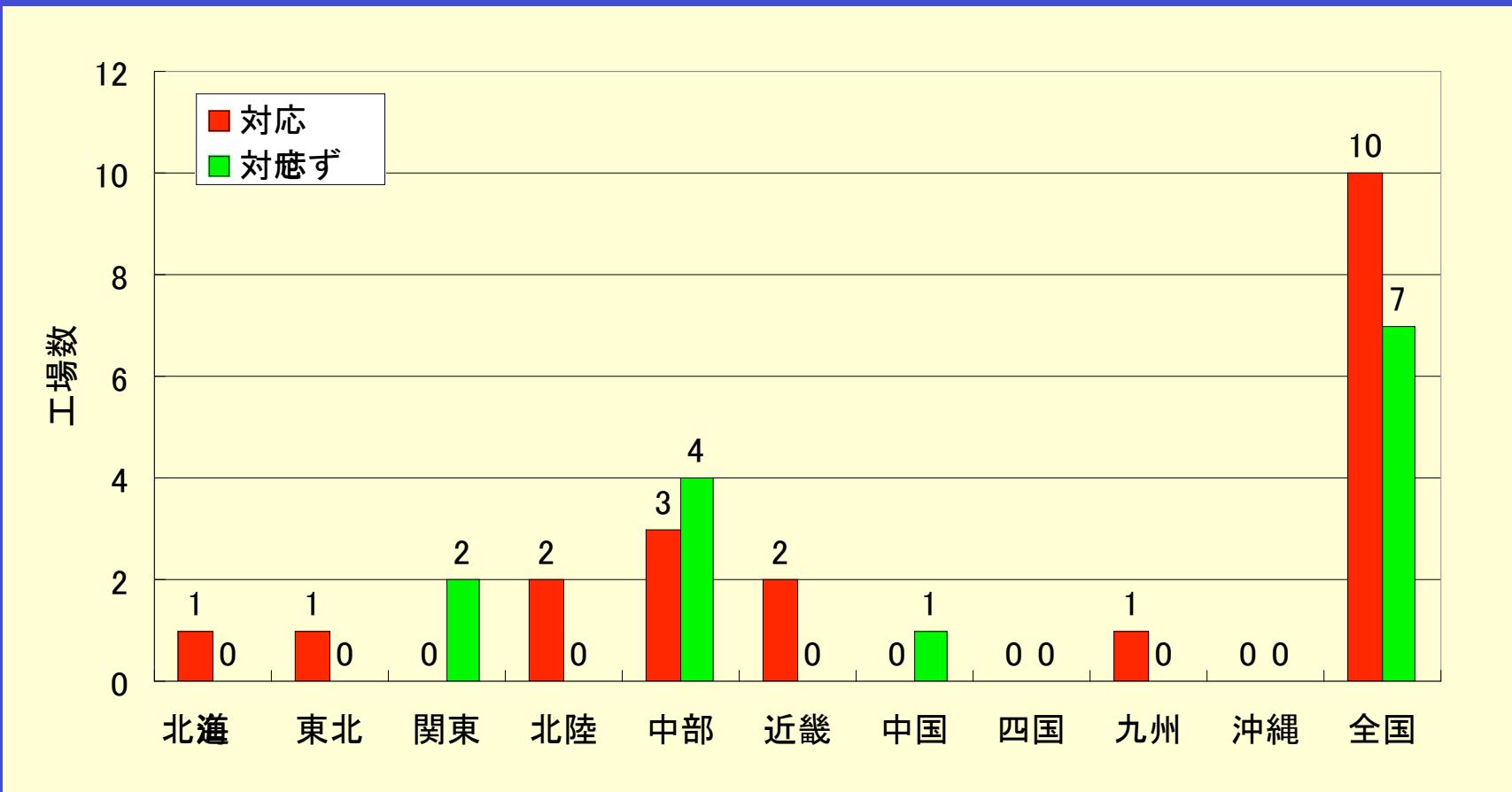
約40%の工場で再生混合物用の再生骨材として利用されているが、約50%の工場では再生路盤材としての利用にとどまっている。

再生排水性混合物の製造依頼



回答のあった666工場中、再生排水性混合物の製造依頼を受けたことのある工場数は17(2.6%)ときわめて少ない

再生排水性混合物の製造依頼に対する対応



製造依頼を受けたことのある17工場中、10工場(59%)で対応したとの回答があったが、具体的な対応策としてはほとんどが試験施工とのことであり、実用化の域には達していない

排水性舗装発生材のリサイクル に対する各機関検討状況

排水性→排水性

排水性→密粒

| 機関 | 路線 | 交通件 | 施箇所 | 施時期 | 再耕翻率 |
|----------------|--------------|------------|--------------|------------------|--|
| 土研 | 舗装実験 | 45万輪 | 舗装実験 | H12年8月 | 表層0(13-0m) m |
| 東都 + 合協会 | 国道1号 都道新織 | A交通 B交通 | 東都薬磨 東都立 | H13年2月 H16年8月 | 表層5 (密粒発材5) 表層0 %表層0相当 表層0 %表層0相当 表層0 %表層0相当 |
| 北陸整 | 国道6号 | D交通 | 新潟羽都羽 村羽施 | H15年1月 | 表層0(13-0m) m 表層0(13-0m) m 表層0(13-0m) m |
| 北陸整 | 国道号 | C交通 | 新潟市 東薬施 | H17年8月 | 表層0(13-0m) m 表層0(13-0m) m 表層0(13-0m) m |
| 九地整 | 国道号 | D交通 | 熊塙鹿郡 鹿野田施 | H16年2月 | 表層0(13-0m) m 表層0(13-0m) m 表層0(13-0m) m |

全ての試験施工で良好な結果が得られているが、あくまでも
試験施工レベルでの話であり、実用化されているものではない